



# みなみっ子

24号

令和8年6月8日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標 自立 協働 創造

## 外国語活動及び外国語の大切さ！ 南城市の教育特例校としての取り組み

文部科学省の小学校学習指導要領における「外国語活動」と「外国語科」の重要性、そしてこれからの社会を見据えた視点から、南城市の先進的な取り組み（1年生からの外国語活動）の意義について説明します。

### 1 これからの社会と外国語教育の重要性

現代の社会は、グローバル化が急速に進むと同時に、多様な文化や背景を持つ人々が協働する「多文化共生社会」へとシフトしています。これからの時代を生きる子どもたちにとって、英語をはじめとする外国語は、単なる「受験のための科目」ではなく、「世界とつながり、自らの可能性を広げるための不可欠なコミュニケーションツール」です。学習指導要領では、外国語教育の目的を単なる言語修得にとどめず、以下のような資質・能力の育成を目指しています。

コミュニケーションへの積極的な態度：間違いを恐れずに自分の気持ちや考えを伝えようとする姿勢。

言語や文化に対する理解：日本語や日本文化の良さに気づくと同時に、世界の多様な文化を尊重する広い視野。

### 2 学習指導要領における「外国語活動」と「外国語」

現行の学習指導要領では、段階的に英語に親しみ、力をつけていく構造になっています。学年区分主な目的と内容 3・4年生外国語活動を音声中心に外国語に親しむ。体験的な活動（歌、ゲーム、チャンツなど）を通してコミュニケーションの素地を養う 5・6年生外国語（教科）「聞く・話す」に加えて「読む・書く」の基礎を学ぶ。言語としての仕組み（文法や単語の綴り）にも触る。

### 3 南城市における「1年生からの外国語活動」の先進的意義

南城市内の小学校が「教育特例校」として、1年生という早期から外国語活動を取り入れています。

①1年生から英語の音声やリズムに日常的に触れることで、日本語にはない音の壁を自然に乗り越えることができます。

②1年生の段階から、歌やゲームなどを通して「英語を使う＝楽しい活動」という原体験を積み重ねることで、英語に対する苦手意識を持たずに、積極的なコミュニケーション態度を自然に育むことができます。

③低学年の時期に、自分たちの身の回りとは異なる言語や文化に触れることは、子どもたちの知的好奇心を大きく刺激します。

### まとめ

文部科学省が求める「主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度」の育成において、南城市が実践している「1年生からのアプローチ」は、子どもたちのアドバンテージを最大限に引き出す極めて効果的な取り組みです。早い段階から「言葉が通じる喜び」を体感した子どもたちは、高学年での「教科」としての英語学習や、中学校以降のより実践的な英語学習へもスムーズに移行し、これからのグローバル社会をたくましく生き抜く力を身につけていくことができます。

## 南城市が拓く未来：1年生からはじめる外国語教育のメリット

文部科学省の学習指導要領を背景に、南城市が「教育特例校」として実施している1年生からの外国語活動の意義を解説します。早期導入により、言語習得の黄金期を活かし、心理的な壁を取り払うことで、グローバル社会で活躍する力の土台を築きます。



### 学習指導要領と南城市の先駆的な取り組み

#### コミュニケーションへの積極的な態度



間違いを恐れず、自分の気持ちを伝えようとする姿勢を育みます。

#### 南城市の「教育特例校」としての実践



南城市の「教育特例校」としての実践  
通常3年生からの活動を1年生から導入し、早期の英語親和性を高めています。

#### 標準的な学習指導要領における英語教育のステップ



3・4年生



外国語活動：  
音声中心。歌や  
ゲームで親しむ  
(評価なし)。

5・6年生



外国語(教科)：  
読み書きの基礎。  
文法や単語も学び、  
成績評価の対象。

### 1年生から英語に触れる3つの教育的メリット

#### 言語習得の「黄金期」を最大限に活用



音を真似る能力が高い低学年のうちに、英語特有の音やリズムを自然に習得します。



心理的バリア(苦手意識)の解消  
「恥ずかしい」と感じる前に楽しい体験を重ね、積極的な態度を定着させます。



知的好奇心と国際感覚の芽生え  
異文化に触れることで、多様性を尊重する豊かな人間性の土台を築きます。